2010.4

S.O.E. News no.55

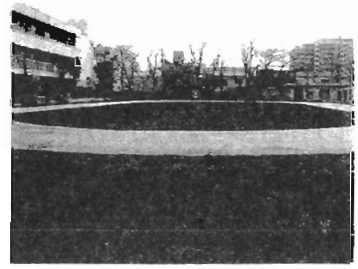
ホームページもご覧ください。
NPO-SOE.JP

NPO センスオブアース・市民による自然共生パンゲア からのお知らせ

いたばし
ビオトープ
ネットワーク
学校訪問シリーズ

東京都板橋区立蓮根第二小学校

校庭全芝化完成



蓮二っ子の「きらきら　すくすく　にっこにこ」のため　地域と共に自然共生を大きく進める―蓮根第二小

2010年4月3日　蓮二小　第1回芝刈り大会に集まった人々

「芝がとってもきれい！長く持ちそうで、うれしいです。」
高一の卒業生 鈴木雄貴さん

「きれいです。ビオトープもきれいだったので、もっと草が生えてくれるといいです。」
高一の卒業生 宮内翔悟さん

「昆虫などがくればうれしい。どんどん壁当てがしたい。芝生の上に寝転んで日向ぼっ子をしたい。」
6年 井浦悠さん

「植える活動は少し大変だったけど楽しかった。完成して遊べるようになったら、すぐ遊びたい。夏、涼しくなる！ドッチボールをやりたい。」
6年 川野佑太さん

蓮根第二小では、ビオトープに次ぐ校庭の環境づくりとして校庭の全芝化が完成した。

４月３日には初めての芝刈り大会が行われると聞いて、駆け付けてみると、卒業生やその保護者を先頭に、地域の方々や、保護者ＯＢ、先生方、専門家が集まって、芝刈り大会の真っ最中。電動・手動とも芝刈り機の使い方を教えてもらい、子供たちは保護者とともにすぐに、芝刈りを楽しんでいた。「裸足になって歩いていいよ。」の声に、みんな裸足になってかけまわったり、寝転んだり。

学校支援地域本部がスタートしたばかりだが、本当にいろんな人々が駆け付けて理屈抜きでこの活動を楽しんでいるようであった。この芝の感触は柔らかく草のバスタオルのようであった。

（この芝は、国立競技場やＪリーグスタジアムと同じ種類の芝生、児童一人当たりの芝生の面積は１０㎡ほどもあり、維持するのに理想的な面積だそうである。基盤はグラスミックス工法　保水排水踏圧に優れる新方法のようだ。）

芝刈ボランテイア組織の責任者 田中氏、地元の自治会長 後藤氏、朝倉副校長、校庭が練習場所の地元少年野球部の監督が、真剣に芝刈りの説明を受けていた

「植え付ける時、隙間をなくすのが難しかった。出来上がってうれしい。寝転がって叫びたい、ワアー！って。」
6年　吉田翼さん

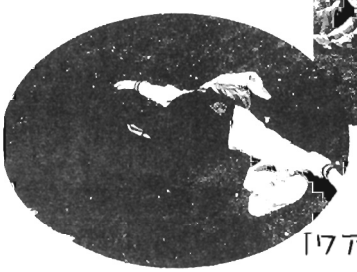
「これまで、校庭で遊べなくなったのは残念な気持ちだったけど春が楽しみだった。寝転がったり芝生の上を駆け回りたい。芝生に生きものがたくさん来るのが楽しみ。」
6年　池田ひまわりさん

「植え付けにも、子供たちが参加しました。植えて２日たつと、茶色かった芝が緑に変わってその成長の速さに驚きました。夏までは１週間に２回芝刈りをやる予定なので、１回は子供たちが掃除の時間に分担で行っていき土曜日などに、保護者・地域の方の協力してもらうことになりそうです。」
古川恵子先生

「何回か芝はこの学校で、挑戦したことがあったが、今度は念願がかなった。維持していくのが大変だけれど、出来るだけ長く維持してほしい。子供たちが裸足で自然を感じてほしい。息子も身近にあったビオトープから生きものを大切にすることを身に付けた。草でもむしったりしない子になった。」
前保護者　新田かをりさん

「もっと小さいころから経験させたかった。裸足になって思い切り走りまわってほしい。ビオトープとともに大切にしてほしい。」
前保護者　森さん

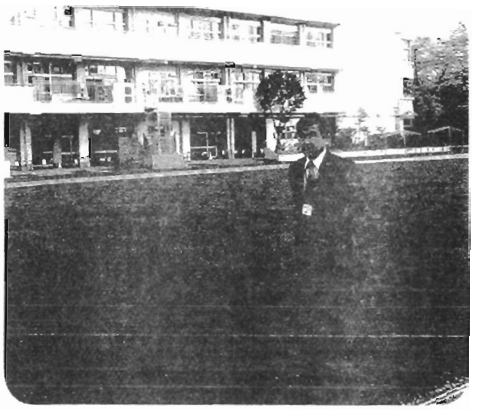
この３月に卒業したばかりの前６年生と保護者の皆さんも芝刈りに参加



「ワア！この感触に出会いたかった」

この芝生は、全額東京都の予算で作られた。ここまで来るまでには、様々な、困難や調整、行政との話し合いがあったようで、地元の自治会や地域の方々が様々に応援してくれたと伺った。

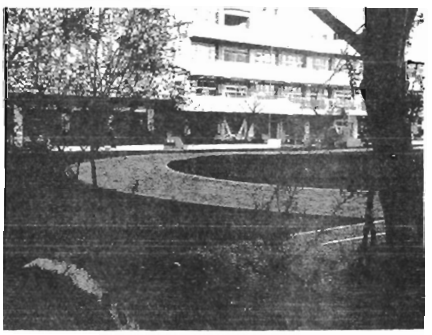
石井雅喜校長先生のお話



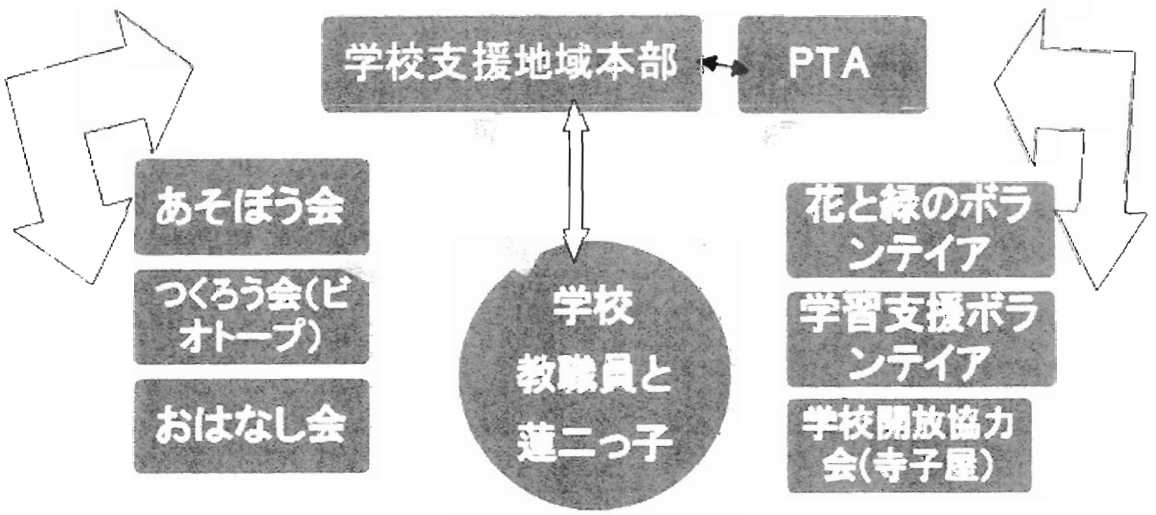
「これは心の教育・環境教育です。本校の子供が穏やかなのは、ビオトープのおかげだと思っています。子供には総合的な学力が必要です。国連のＥＳＤの取り組みも視野に入れ、これから各学年の中にビオトープと芝生をリンクして一貫して環境教育をしていこうと考えています。この恵まれた環境を活用し、授業開発していくのが目標です。ここまで来るまでに板橋区の方へ、たくさんの案を送りこの形になりました。排水のことを特に工夫しトラックの土が芝生に入らないように周囲に堀を作ったのが特徴です。散水のスプリンクラーには重点を置いて、他の学校ではあまりやっていないポップアップ方式を取り入れ、３０か所に設置してあります。散水で校庭が完全にカバーできます。（小さな半円や全円で校庭を埋め尽くしている立ち上がりの散水方式）」

ここの取組を支えていくのが、蓮二っ子応援団一学校を支える板橋区で２番目の組織「学校支援地域本部」の立ち上げ（文部科学省支援事業）だ。この地域の人々の学校への思いを力にして、家庭力とともに地域ぐるみの支援を受けながら、子供を豊かに育てていこうという取組である。芝の管理もこの本部と共に行動していく。

校庭の芝とビオトープが生きものの通り道になった（コリドー）。生態系が豊かに変化し始めた。



学校支援地域本部の概要
（学校作成パンフレット参照、　図作成　寺田）



校庭の芝の管理は、予断を許さない期間があるが、それをみんなで自然へ働きかけるやさしさと楽しさに変えていく力を地域が持っている。その代表として、ビオトープ作りからあそぼう会の今日までの活動で、一貫して学校のボランテイアとして取り組んでこられた先崎正彦さんと、ビオトープの維持管理から参加している学生ボランテイアの日本女子大学の須藤さんにお話を伺った

蠢く（うごめく）あそぼう会・つくろう会　先崎正彦さん

板橋区立蓮根第2小学校の校庭が、見事な全芝に生まれ変わった。
例えるならば・・・そう、ちょうど国立競技場のミニチュア版とでも言えばいいのだろうか…
トラックだけが土で、その周りには青々とした冬芝が一面に広がっている。
かつてこの見事な芝生の下には、近隣で廃校になった小学校から移植した普段着の「草芝」が群生していた。移植作業には当時の保護者ボランティアがシャベルを手に毎日汗を流した経緯がある。クローバーやシロツメクサなどが混在した草芝で、昔はあちこちで見かけた子供の遊び場「はらっぱ」を彷彿させる一角であった。季節ごとにハクセキレイやツグミ、カルガモ、コサギが歩き回り、夕刻にはコウモリが草芝の下で活動を始めだす虫を食べに群れを成してやって来る。それはちょうど漢字の「蠢」という字を連想させる光景だった。あの草芝もそれなりに味わいがあり、この学校の一時代を彩ってくれていたように思う。生まれ変わった格調高い全芝の校庭。この先、この場所で、今までに経験したことの無いような生き物の交流の場面に遭遇できるのだろうか？春本番を迎え、どうやら「芝生」を媒体にこの学校の新たな環境教育活動が蠢き始めたようである。

春の蓮二ビオトープの改修に参加して　日本女子大学教育学科　3年須藤かおり

3月21日に蓮根第二小学校のビオトープで見学と補修作業を行いました。蓮根第二小学校に行ってまず目に飛び込んできたのは青々とした芝の校庭。暖かい春の陽気でぐんぐん成長していて、子供たちが裸足で遊べるような素敵な校庭でした。その校庭の端に蓮根第二小学校のビオトープがあり、小学校の中とは思えないくらい多くの自然がありました。池の中ではメダカや小さなフナが元気よく泳いでいたり、ヤマアカガエルとアズマヒキガエルのおたまじゃくしが活動し始めたりしていました。補修作業では、ビオトープの用水路のカワヤナギの根の除去を行いました。根の間にもヤゴやおたまじゃくしが多くいて、生き物たちの居場所にもなっていたようです。根の除去の後、水を流すと用水路はもとの深さを取り戻し、流れがよくなりました。補修作業の後、用水路の中の水をザルで少し掬ってみるとヤゴやおたまじゃくしが何匹も。用水路にも多くの生き物が生きているのだと感じました。運び出した、草の根や土は水際におき、中に生息している生きものが逃げていけるようにしました。2週間後の4月3日にその土を片づけました。
今回初めて見たビオトープには私が思っていた以上に多くの生き物が生きていました。このビオトープの自然と生き物が、季節ごとにどう変化していくのか楽しみです。

発行　特定非営利活動法人 センスオブアース・市民による自然共生パンゲア
東京事務所　東京都板橋区前野町4－8－6（〒174-0063）phone: 03-3960-6052　fax: 03-3960-6053
e-mail: info@npo-soe.jp　url: www.npo-soe.jp